

ヤナセ天然スギ*1の今後の取扱い(伐採・供給の方針)

1. ヤナセ天然スギとは

- ・ヤナセ天然スギは、高知県安芸郡馬路村魚梁瀬地区を中心に分布している。
- ・その成立は600～700年以前と考えられており、現存する林は、大阪城築城等のため江戸時代に伐採された林の2代目と推定されている。
- ・明治4年の廃藩置県まで、土佐藩の「御留山」として厳重に管理され、廃藩置県後、国有林となり現在に至る。
- ・高度経済成長期においては、地域の林業・木材産業を支える森林資源として利用され、昭和41年には、高知県の県木に制定されるなど地域を代表する樹木として扱われてきた。

2. ヤナセ天然スギのこれまでの取扱い

- ・昭和52年、全国的に天然スギの資源量が減少する中で、ヤナセ天然スギの計画的、持続的な供給と銘柄の維持を図る観点から、ヤナセ天然スギの供給計画(以下、供給計画という。)を策定し、それに基づく伐採を実施してきている。(表1)
- ・供給計画の内容は、天然スギの伐採量を漸減させながら平成44年度まで供給を継続し、その後は、長伐期施業の人工林(伐期齢130年)に高品質材供給の役割を引き継ぐとの考えとなっている。
- ・供給計画については、ヤナセ天然スギの資源量や伐採の状況等を踏まえ、これまで5回の見直しを実施しており、現行計画は平成14年度に策定したものである。

表1 ヤナセ天然スギの供給計画と収穫量実績の推移

	【ヤナセ天然スギの供給計画と実績(収穫量)】											計		
	(1分期) S53-57	(2分期) S58-62	(3分期) S63-H4	(4分期) H5-9	(5分期) H10-14	(6分期) H15-19	(7分期) H20-24	(8分期) H25-29	(9分期) H30-34	(10分期) H35-39	(11分期) H41-44		(12分期) H45-	
昭和52年度 供給計画 1978-2032	90,000	75,000	60,000	45,000	35,000	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	人工林 (長伐期) へ引き継ぎ	455,000
	18,000	15,000	12,000	9,000	7,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000		365,000
昭和57年度 供給計画 1983-2032		75,000	60,000	45,000	35,000	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000		270,000
		15,000	12,000	9,000	7,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000		135,000
昭和62年度 供給計画 1988-2032			60,000	35,000	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000	25,000		48,000
			12,000	7,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000		26,000
平成4年度 供給計画 1993-2032				35,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	15,000	10,000		
				7,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	2,000		
平成9年度 供給計画 1998-2032					15,000	8,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000		
					3,000	1,600	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000		
平成14年度 供給計画 2003-2032						7,000	5,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000		
						1,400	1,000	800	800	800	800	800		
収穫量 (実績)	118,879	107,286	63,248	35,803	14,069	9,207	4,417	0					352,909	
	23,776	21,456	12,650	7,161	2,814	1,841	883	0						

注1: 上段は各分期(5年間)の総量、下段は年平均量である。

注2: 赤字は前計画から計画量の見直しが行われたもの。

*1 魚梁瀬地方を中心として分布する天然生のスギの通称は「ヤナセスギ」とされているが、本文では天然生のスギであることを明確にするため「ヤナセ天然スギ」とする。

3. ヤナセ天然スギの資源状況

- ・ヤナセ天然スギの分布する林地面積は約1,100haで、うち約200haを保護林として、残り約900haを伐採や造林などの森林施業を行う林(以下、施業対象林という。)として管理している。(図1)
- ・しかし、この施業対象林のうち、供給の対象となる一定程度の大径木が残されている林分について平成25年に行った調査によれば、胸高直径90cm以上の大径木が1ha当たり10本以上分布する林分は約100haと、平成14年度の供給計画策定時に推計していた資源量と比べ大幅に減少している状況にある。(表2、図2)

図1 ヤナセ天然スギの資源状況について

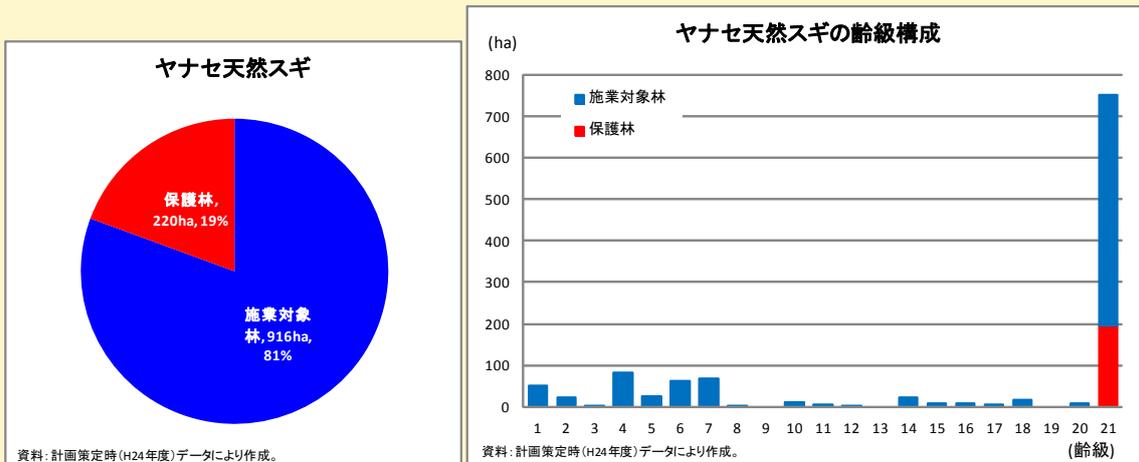


表2 ヤナセ天然スギの資源調査結果について

林小班	林地面積 (ha)	本 数					計	ha当たり 総本数	ha当たり 90cm上 本数
		胸高直径 90cm~	胸高直径 70~89cm	胸高直径 50~69cm	胸高直径 20~49cm	胸高直径 8~18cm			
2015ろ	10.85	45	24	84	788	537	1,478	136	4.1
2066い	14.50	41	79	178	1,198	671	2,167	149	2.8
2099し1	6.43	41	15	41	355	408	860	134	6.4
2099し2	0.82	7	1	3	52	66	129	157	8.5
2099し3	10.22	107	99	118	757	1,228	2,309	226	10.5
2099し4	9.25	191	159	177	1,308	1,368	3,203	346	20.6
2099し5	10.81	111	108	184	2,447	2,863	5,713	528	10.3
2099し6	7.00	56	57	42	707	1,461	2,323	332	8.0
2099ろ1	27.98	63	153	382	1,844	1,902	4,344	155	2.3
2099ろ2	11.17	89	30	84	1,057	2,002	3,262	292	8.0
2219は	1.39	58	120	56	18	6	258	186	41.7
2222ろ	14.73	421	452	364	540	249	2,026	138	28.6
2027い	23.13	307	382	668	1,674	967	3,998	173	13.3
2028い	14.97	139	168	569	1,801	791	3,468	232	9.3
2033い	27.24	334	520	515	912	786	3,067	113	12.3
計	190.49	2,010	2,367	3,465	15,458	15,305	38,605	203	10.6

※事業名

南亀谷山国有林外14箇所ヤナセ天然スギ等資源調査委託事業(H25.3.22~H25.6.28)

図2 ヤナセ天然スギの資源状況について(平成14年度との比較)

〔ヤナセ天然スギの資源量〕

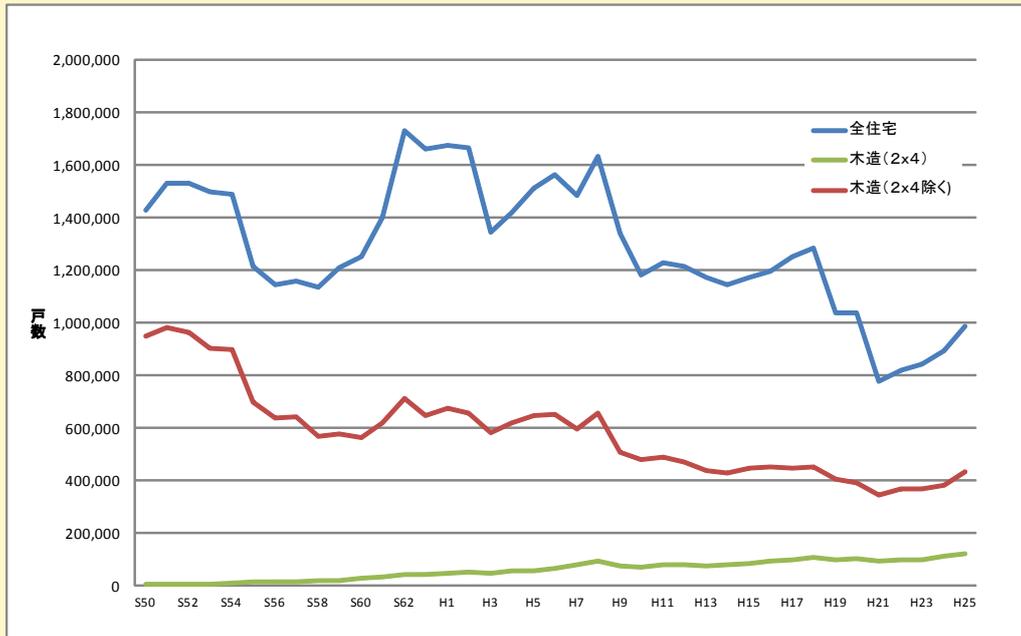
	現行供給計画策定時	現時点
ヤナセ天然スギの森林面積	370ha	330ha
ヤナセ天然スギの蓄積	101,000m ³	81,000m ³
大径材の分布する森林の面積	187ha	97ha
大径材の蓄積	20,000m ³	15,000m ³

- 注1:ヤナセ天然スギの森林面積及び蓄積は、森林計画策定時(H14,H24年度)のデータ(実面積)をもとに集計。
 注2:現行供給計画策定時の大径材(胸高直径90cm以上)の分布する森林面積は、平成9年度供給計画の収穫可能箇所から、現地踏査で大径木がないと判断した箇所及び平成9～14年度に伐採された箇所を除いた林分の面積。現時点の同面積は、平成25年に実施したヤナセ天然スギの毎木調査において、大径材の本数が10本/ha以上の林分の面積。
 注3:現行供給計画策定時の大径材の蓄積は、供給計画策定にあたり平均的な林分の収穫調査結果等にもとづき試算したもの。一方、現時点の同蓄積は、平成25年に実施したヤナセ天然スギの毎木調査結果をもとに、大径材の本数に、10m³/本として試算したもの。

4. ヤナセ天然スギの需給動向

- ・ヤナセ天然スギは、その材の持つ特徴(色彩が豊か、変化に富んだ杢目など)から和室の天井板や柱などに使用されてきた。しかしながら、住宅着工戸数の推移をみれば、木造住宅が減少するなかで、在来工法による住宅の着工戸数も減少しており(図3)、また、ヤナセ天然スギの用途の一つである貼天井に使用される天然木化粧合板についてみても大きく減少している状況にある(図4)。こうしたことから、天然スギを使用する機会も減少しているものと考えられる。
- ・ヤナセ天然スギの資源内容についても、大径木の資源量は減少し、また、品質の低下も見られるところである。
- ・このような背景から、最近のヤナセ天然スギの取扱いは減少し、取扱い価格も低下しているものと推測される。(表3)

図3 住宅着工戸数の推移



資料:(一社)日本ツーバイフォー建築協会公表資料より作成

注:「全住宅」とは住宅着工戸数の総数、「木造(2×4)」とは住宅着工戸数のうちツーバイフォー工法による住宅の戸数、「木造(2×4除く)」とは住宅着工戸数のうちツーバイフォー工法を除く木造の住宅着工戸数をいう。

図4 天然木化粧合板の製造量の推移



資料:農林水産省「木材需給報告書/製材品累年統計」。

注:集計の単位がH8年以前は「m2」、H9以降は「m3」となっているため、データの連続性は図れていない。

表3 ヤナセ天然スギの取扱量等の推移

	H4年度	H9年度	H14年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
民有林材	販売量	428	716	550	71	3	18	3	6	0
	販売額	42,563	82,009	42,050	6,573	135	3,347	119	334	0
	販売単価	99	115	76	92	50	191	37	55	0
国有林材	販売量	576	509	884	596	484	595	592	474	465
	販売額	361,095	242,080	141,999	49,307	36,965	49,387	42,349	31,594	35,665
	販売単価	626	475	161	83	76	81	72	66	77
民国計	販売量	1,004	1,225	1,434	667	487	613	595	480	465
	販売額	403,658	324,089	184,049	55,880	37,100	52,734	42,468	31,928	35,665
	販売単価	402	265	128	84	76	86	71	67	77

資料:高知県林材株式会社における取扱量等について、同社提供資料により作成。

	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
販売量	1,352	1,037	861	732	583	631	480	59
販売額	459,355	295,070	218,683	176,430	150,452	152,088	108,728	17,471
販売単価	340	285	254	241	258	241	227	296

資料:土佐銘木センター(安芸郡田野町)における銘木製品の取扱量等について、高知県安芸林業事務所調べ。

注:H25年度は、4月、5月で市は終了。その後、市は休止中。

5. スギ長伐期人工林の資源状況

- 供給計画では、ヤナセ天然スギの供給終了後(平成45年度以降)は、長伐期施業の人工林(伐期齢130年)に高品質材供給の役割を引き継ぐとしていたところであるが、現在の人工林の資源構成からすると、130年以上の人工林から材を供給するまでには、20年程度の期間を要する状況にある。(図5、6)
- 一方、50cmを超える大径材が供給可能な80年生以上の高齢級人工林は増加しており、100年生以上の人工林も存在することから、こうした高齢級人工林で生産可能な大径材の供給可能量を試算すると、平成30年から34年の5年間では520m³/年、平成35年から39年では790m³/年、平成40年から44年では1510m³/年と見込まれ、量的には天然スギ材を代替することが可能である。(表4)

図5 スギ長伐期人工林の齢級構成

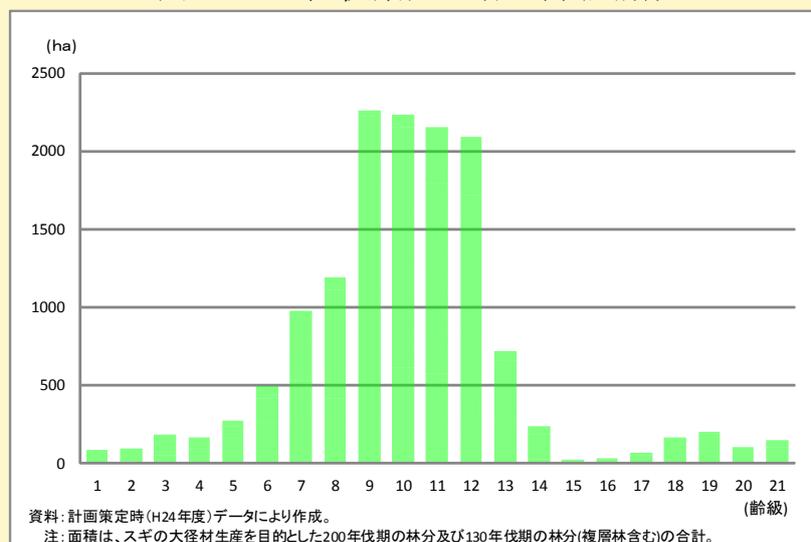


図6 スギ長伐期人工林の齢級構成の推移(見通し)

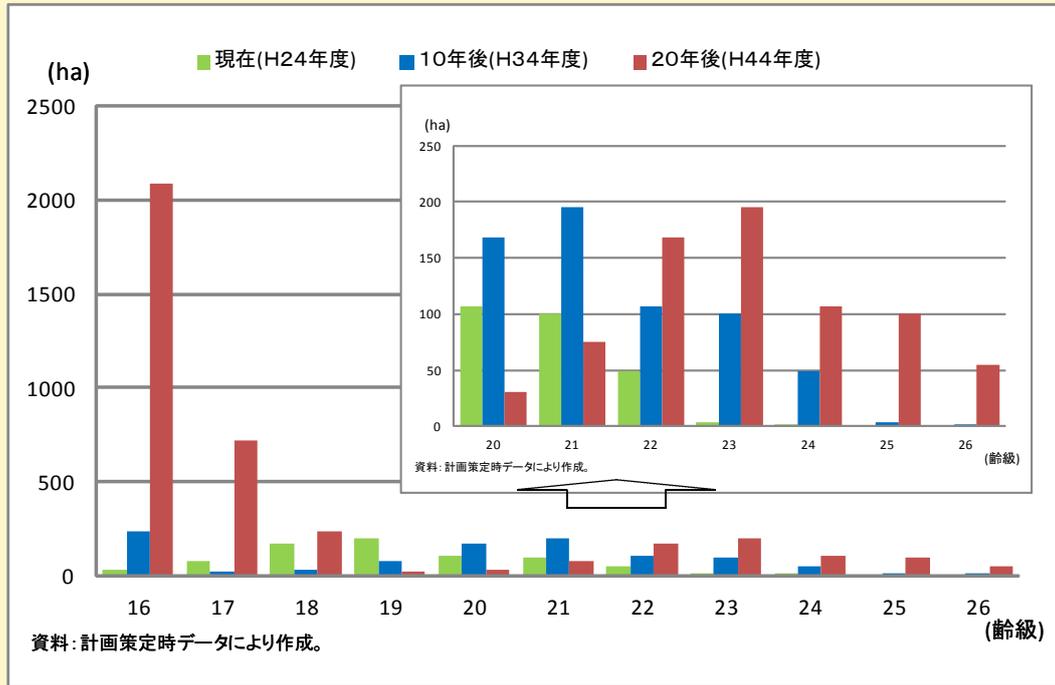


表4 スギ長伐期人工林からの大径木供給可能量(試算)

(単位:m3/年)

	H30-34	H35-39	H40-44	H45-49
130年生以上	0	0	50	130
100-130年生	370	550	710	890
80-100年生	150	250	760	2,510
計	520	790	1,510	3,510

(参考)天然スギの供給計画量(現行計画)

天然スギ	800	600	600	0
------	-----	-----	-----	---

注1: 四捨五入のため計は一致しない。

注2: 人工林の大径木(丸太の径が50cm以上)の供給可能量について、以下の条件のもと試算。

- これまでの間伐実績から50cm以上の出材が期待できる16齢級以上の林分(200年伐期及び130年伐期)を対象
- 将来の蓄積は、森林計画策定時(H24年度)のデータと収穫予想表をもとに算出
- 間伐は、80年から130年の間に2回実施。間伐率は30%
- 間伐により出材される50cm上の割合は、16齢級を2割とし齢級が上がるごとに割合を引き上げ(26齢級は8割)

6. 今後のヤナセ天然スギの取扱い(伐採・供給の方針)

以上のような状況を踏まえ、今後のヤナセ天然スギの伐採及び供給については、次の方針により取扱うこととする。

(1) ヤナセ天然スギの伐採・供給の方針について

- ・希少なヤナセ天然スギの資源を維持し保全していくため、継続的、計画的な伐採及び供給は、平成30年度から休止する。
- ・ヤナセ天然スギの林分(保護林以外)のうち大径木がha当たり10本以上あるなど一定程度の資源の充実が見られる林分については、備蓄林的な位置付けとして扱い、今後、不定期に発生することが想定される神社仏閣の修繕など、公共性の高い特殊な用途の需要等に対応することとする。
- ・一方、台風等により発生した被害木や危険木、衰退木等について、安全確保等の観点から行う伐採や、後継樹の育成の観点から行う試験的な伐採も想定される。これらの供給については、適切な搬出方法を選択する中で検討するものとするが、供給が可能と判断されれば、需要者側に情報を提供しつつ有効活用する方向で対応を検討することとする。

(2) 人工林スギ大径木の供給について

- ・人工林スギの大径木については、130年生以上の高齢級林分に加え、80年生以上の林分についても間伐等により発生する材を供給することとする。
- ・スギの高齢級人工林については、今後、充実していく状況にあることから、そこから生産される大径材については、ヤナセ天然スギを代替する優良材として位置付け、ブランド化や需要の創出等について民有林と連携して取組むこととする。

(3) ヤナセ天然スギの後世への引き継ぎ

- ・林野庁で保護林制度の見直しについて検討が行われており、今後林野庁から示される保護林の取扱い、ヤナセ天然スギに関する外部機関による調査研究、千本山保護林のモニタリング調査等を踏まえ、ヤナセ天然スギの施業上の取扱いなどについて、関係機関と連携して検討を行うこととする。

(4) 現行供給計画の扱い

- ・ヤナセ天然スギの供給については、上記によることとし、現行の供給計画は新たな伐採・供給の方針の決定に伴い廃止する。

(参考)平成29年度までのヤナセ天然スギの供給について

- ・安芸森林計画区の施業実施計画(計画期間:平成25年度～29年度)に基づき、資源状況等を踏まえ、事業収支面を考慮して計画する。